

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第36号 2014年11月

もくじ

故 澄川 沃さん、故 高橋 博良さんを偲んで	富川 昌美
MECCの生物多様性保全に向けた活動	川真田直之
エコアクション21の現状と課題について	倉光 康夫
たかがゴミ、されどゴミ その1	加納 啓有

故 澄川 沃さん、故 高橋 博良さんを偲んで

当協議会会員であった澄川 沃さんは本年3月31日、高橋 博良さんは同8月19日に逝去されました。お二人とともに当協議会で活動されておられた富川 昌美さんより追悼文をお寄せいただきここに掲載致します。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。
(MECC事務局)

澄川 沃さん

3月末日、澄川さんを送って早くも半年が経ちました。穏やかで口数の少なかった澄川さんは、神田川・井の頭池・善福寺公園などを活動の場として生態系と学童の環境学習については独特の考えをお持ちでした。私は今でも「ああ澄川さんがおられれば」と独り言を言うことがあります。「偲ぶ会」には沢山の方々が集り、その人柄を懐かしんだことでした。故人にしてみればやり残したことも多かったと思いますが、多加子夫人がご遺志を継いで私たちの仲間として活動しておられます。どうぞ安らかに見守って下さい。



2013年 武蔵野市サイエンスフェスタにて

高橋 博良さん

武蔵野市在住の環境カウンセラーの第一期生く高橋、糸井、中野、中島、富川>が集まったニュースは読売新聞に写真入りで掲載され、活動が始まりました。更に活動は多摩地域に広がって「武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会」(MECC)が結成されましたが、これは東京で最初のカウンセラー協議会でした。MECCの活動の原点には糸井さんと並んで高橋さんの活躍がありました。現役時代は食品関係での安全・環境問題への対応で多くの功績があり、MECCでもその分野で手腕を発揮されました。長い闘病の末のご逝去でした。ご冥福をお祈りいたします。



MECCだより第5号(2004年7月)理事長挨拶より



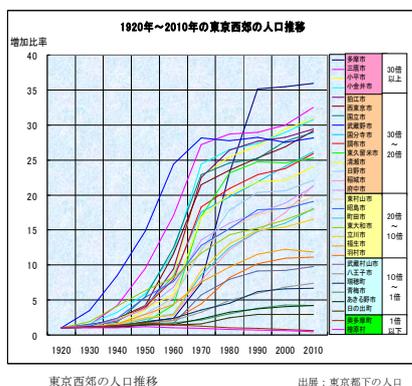
MECCの生物多様性保全に向けた活動

川真田 直之

「生物多様性地域連携促進法」が平成23年10月から施行されました。MECCはこの法律に沿った活動を推進するため、平成25年度に武蔵野市の補助事業に参加し、生物多様性シンポジウムを開催して、一般市民を対象とした講演会を行いました。このシンポジウムでは生物多様性の基本的な話を専門家にお願ひし、武蔵野地域の約100年前からの環境や河川の変化と植物・野鳥・昆虫・水生生物の変化をMECCメンバーの有識者がまとめました。この活動を通して、私たちは生物多様性の認知を一層広める必要性を痛感しました。

この推進活動は、散発的な講演会だけでは効果が期待できないと反省し、平成26年度はもっと組織的に活動の輪を広げるために、MECCの会員自身が全員で手分けして推進できるようなテキストをまとめることにしました。そのためにシンポジウムで収集した内容やデータの補足を行い、内容を充実させています。

私たち環境カウンセラーは、多くが会社を定年退職した後、次の活動に意欲を燃やす高齢者です。その人達が幼少の頃に親しんだ虫・魚・鳥・植物の状況は当時とは変わって来ています。無論、生活環境も大きく変わって来ています。私たち高齢者は幼い頃の思い出を懐かしみ、元のような状態に復元したいと願うでしょうが、これは所詮無理があります。一方、現在の子供達は私たちの幼年期の状況は理解できないでしょう。しかし、自然や環境がどのように変わると、その変化と共に生物がどう変化するかを知り、自然や環境を保存しなければ、歳を取ったときに自分たちの慣れ親しんだ虫・魚・鳥・植物が居なくなる可能性があることを知ることになります。

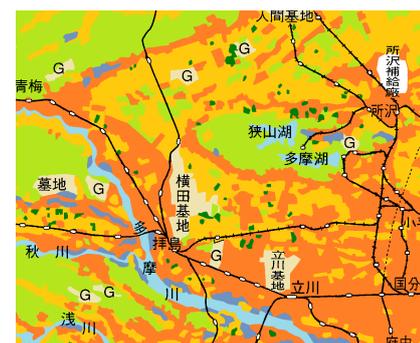
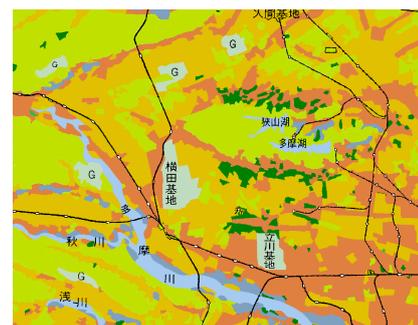
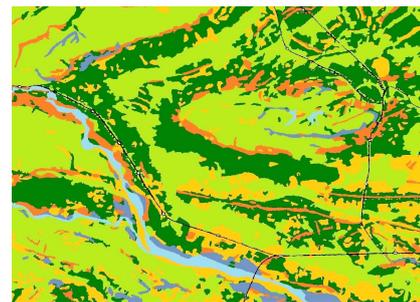


上図は東京西郊の人口変化、右図は土地利用の変化を示す。生物多様性が大きく変化した原因の一つ。

自然や環境を大切にすることが如何に重要であるかを学び、私たちの行ってきた行動の問題点を理解して、別の行動を取って将来に後悔をしないような道を切り開いてくれればと願う次第です。

これまで人類が社会活動や生活活動に於いて行動してきた全てが、多かれ少なかれ自然環境に影響を及ぼしており、且つ大部分の活動が自然にとって悪い効果を及ぼして来ました。人口増加に始まり、文明の発展と共に自然や環境への変化は一層度合いを増しています。衣食住の充足だけでは満足できずに、より高い生活レベルを望む人類の欲望により、自然や環境の過度な破壊が進んでいます。私たち全員が少しでも早くこの事実気付き、これからの全ての活動に対し常に自然や環境への影響を考慮して行動する必要があります。MECCは今後組織的にこの「行動原則」を広めたいと考えています。

市街 山林 畑 桑畑 水田 その他



エコアクション21の現状と課題について

～「第9回エコアクション21 全国交流研修会 in 松山」に参加して

倉光 康夫

毎年開催されているエコアクション21審査人と地域事務局員による全国交流研修会が今年度は愛媛県松山市の松山全日空ホテルで、平成26年10月24、25日の2日間にわたって開催されました。当日は400名を超える審査人が一堂に会して大会は進められました。

まず初めに松山市の門田恒夫氏（環境事業推進課長）から「環境モデル都市松山の環境政策」について紹介がありました。続いて今大会のメイン議題である分科会が開かれました。分科会は「建設業」「廃棄物処理業」「製造業」「その他（商業・サービス業）」の4分科会に分かれ意見交換・討議を行ないました。各分科会では10名前後のグループに分かれ、統一テーマ「アドバイス（指導・助言）」のもと、それぞれの分科会で決められた個別課題について話し合いを行った後、各グループのまとめを発表しました。製造業分科会では参加者全員の投票でベストの検討報告を決定しました。この討議の中では審査人同士で意見交換が進み、事業者には有益なアドバイスの仕方・内容等をお互いに紹介しました。この討議の中でEA21の置かれた状況について理解を深めることができました。その後の懇親会では食事や郷土芸能を楽しみしながら審査員間の交流を図りました。

二日目は各分科会の責任者から報告と代表グループの討議結果の発表がありました。次に環境活動レポート作成（Eco-CRIP 検討委員会座長；後藤俊彦氏）、環境パートナーシップの運営について（四国環境パートナーシップ所長；常川真由美氏）の講演がありました。最後にEA21中央事務局長森下研氏からは「EA21は制度疲労を起こしている」とする認識のもとで、現状分析や現在進めているEA21改革の検討項目について報告があり、大会は終了しました。

この大会を通じて、景気の回復が遅い事に起因して、全国のエコアクション21認証登録事業者数が初めて減少した等、エコアクション21を取り巻く状況がますます厳しくなっていることを痛感しました。また参加した審査人の「296人の提言」（審査に役立つ提言）は冊子にまとめられて配布されました。審査した際に事業者が役立ったと感じたアドバイス例をまとめたもので、今後参考になると思います。

来年は中央事務局が担当して東京で開催されることが決定しており（期日未定）、森下事務局長から首都圏の審査人への協力要請がありました。



これはなんでしょう？ ～秋のひっつき虫クイズ～

ヒント：メナモミの花、キンミズヒキとチヂミザサの果実



写真提供：中西由美子



※ 回答は次ページ下にあります

皆さん、ゴミのことで困った事はありませんか。これから増えるのはゴミと年寄りだけといわれています。自分の家庭や会社から出るゴミを如何に処理するかが団体・個人のステータスに関わる世の中になってくると考えています。

もし貴方が、会社で自社の廃棄物管理を仕事にされている方でしたら、一度は上司に、「処分場を視察に行ってください」と指示されたことはありませんか。その時貴方は「何をどうすればいいの」と困ったことがないですか。よくお客様から「何を見てくださいか」と聞かれます。

実は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に、廃棄物の処理を業者に委託した時は、適正に処理されている事を確認する努力をしなさいという意味のことが規定されています。東京都などに「どの様にして確認するの」と問い合わせると、「処分場の視察」を勧められます。

私も顧客の依頼により中間処分場を案内したことが何度もあります。中には収集した廃棄物を搬入する処分場まで一緒にトラックに乗って頂いて搬入したこともあります。都内近郊の業者だと1日に3カ所は視察できます。



それじゃ行って何を見たらいいのという疑問が起きてくると思います。この法律で、排出者がしなければならないことが何項目か規定されていますので、それに従ってゴミをどう処理されているかを見に行くのですが、正直言って項目も多く、すべてここで説明する紙数ありませんので、それは次の機会に譲ります。

今回は大事なポイントはこれだというところを押さえて頂きたいと思います。まず訪ねて行った時

- 1、悪臭がしないかをチェックする
- 2、作業場が整理整頓されているかチェックする
- 3、機械の音がうるさ過ぎないかチェックする

いささか裏技的になりますが、要は適正に処理されているかどうかを見に行くのですが、逆に考えて適正に処理されないと疑いたくなる状態は何かというと、この3項目が出来ていない業者は、近隣の住民から頻繁に苦情がきますし、適正に処理しようという気持ちが弱いのではないかと考えられますので、業者の変更をお勧めします。この3項目なら一般の人でも判断できるはずですが。

私は、廃棄物業界に20年以上在籍して、やっと少しごみの事が分かってきたかなという段階ではありますが、皆さんが普段疑問に思っていることを一緒に考えて、より適正な廃棄物処理を進めていきたいと思っています。

廃棄物のことで疑問がありましたらMECC事務局若しくは下記までお知らせください。

PHS 070-6980-8611

Email Kanou-chofu@dk.Pdx.ne.jp



編集後記 故澄川さん、故高橋さんへの追悼文を、富川さんにご寄稿頂きましたが、編集者である私望月は、2007年より当協議会に入会したため、協議会発足当時の経緯や活動状況を知る機会となりました。諸先輩方が築かれてきた協議会の活動を更に発展させていくことが、我々に課せられた使命であるということを、改めて認識させられ感慨深いものがあります。

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒189-0026 東村山市多摩湖町3-5-11 泉 浩二
TEL：042-391-2239
ホームページ：<http://www.mecc.or.jp/>
編集者：望月 眞